

2 番 池 谷 受付番号6号、質問議員2番、池谷仁宏。

「災害を未然に防ぐためには」。

近年の自然災害は予想できないものとなっており、山間地域ではナラ枯れによる落枝が非常に目立ち、尺里川等の町内河川では氾濫も十分考えられ、さらに富士山噴火や大規模地震の発生によっては、インフラの寸断もあり得る状況である。

また、ハイカーも増える中、大野山では昨年度二度の山火事があった。

そこで、町民の安心安全確保を最優先に、未然防止対策を講じるべきと考え、以下の質問をする。

- 1、ナラ枯れ伐倒を早急に進めるべきと考えるがいかがか。
- 2、事業者との災害時における連携はどうなっているのか。
- 3、大野山山頂付近に水利の確保が必要であると考えがどうか。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 それでは、池谷仁宏議員から「災害を未然に防ぐためには」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「ナラ枯れ伐倒を早急に進めるべきと考えるがいかが」についてであります。神奈川県の調査では、本町のナラ枯れ被害が令和元年度から発生し、令和4年度には被害木本数が2,780本になっております。

こうした中、町では令和3年度より倒木等による人的被害の発生を防ぐことを最優先とし、主に道路や公共施設などの周辺にある被害木の伐採を行ってまいりました。今後も現地調査や情報共有など、地域の方々と協力し、ナラ枯れ対策事業を進めていきたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「事業者との災害時における連携はどうなっているのか」についてであります。最近では地球温暖化の影響により、台風が直撃しなくとも、線状降水帯が発生し甚大な被害を受けるなど、全国各地であらゆる災害が発生しております。このため本町では、風水害や大地震など被災時における緊急的な相互応援を実施するため、あらゆる企業や団体などと災害時における相互応援協定を締結しております。

最近では、南海トラフ地震や富士山火山の噴火による被害も懸念されているため、関東甲信近隣県の地方公共団体、計8市区町との相互応援協定を締結いたしました。

事業者との災害時における連携ですが、被災時の減災・再建・復興に向けて必要な手続や応援をいただける企業や団体などを検討してまいりたいと考えております。また、応援協定に限らず防災・減災を図る観点からも、協働による訓練や研修も検討してまいりたいと考えております。

次に、3点目の御質問の「大野山山頂付近に水利の確保が必要であると考えerかどうか」についてであります。昨年の12月28日と今年の3月8日に発生した大野山山頂の林野火災では、水利の乏しい中、小田原市消防本部並びに消防団の皆様の多大なる御尽力により無事鎮火することができました。今回の二度の林野火災では、県が所有し食肉業者が借り受けている牧場の貯水槽を急遽借り上げ、水利として利用させていただきました。

また、小田原市消防本部の水槽付きの消防ポンプ車や町の給水車による水利の運搬、分団が所有する背負い式消防水囊など、あらゆる消火機能を駆使し、消火活動に当たりました。同じ山で立て続けに発生したこともあり、その後、牧場の所有者である県の畜産課と借り受けている食肉業者と、同貯水槽を水利として指定できないか協議をしたところ、諸事情により指定までには至りませんでした。今後も有事の際は利用させていただくこととなり、町の水利マップにも追加し水利を確保したところであり、関係各位には大変感謝しております。

今後も山林を抱える町として、水利の確保などについても検討してまいります。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 今町長から御答弁いただきました。

まずはナラ枯れの関係ですが、主に道路や公共施設などの周辺にある被害木の伐採を行ってまいりました。実際には昨年度何本伐採になったんでしょうか。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 ナラ枯れ被害が出ましてから、令和3年度からまず6本、令和4年度、昨

年度も6本なんです。この6本というのは実際には50万、70万と費用がかかっております。

ナラ枯れ被害木の特徴といたしましては、全体的に高齢木の木が多い。ということは、幹が太い木が多いということでナラ枯れの木を伐採するには、大体1本20万円程度の費用がかかるということで、3年度、4年度はそれぞれ6本しか伐採することができませんでした。しかし今年度、5年度は予算の組替えを考えまして、約350万円の予算を取って取りまして、20本から30本程度の伐採ができるのではないかと。

あわせて、今年度は、地域の皆さんの声を反映しまして、先ほども申し上げました公共施設であるとか、道路に影響があるナラ枯れ被害木につきましては、町が直営で工事を行って伐採するんですけども、例えば全くの民地、個人のお宅に生えている木というのは、さすがにそのまま町が全てを伐採するというわけにはいきませんので、補助金制度をつくりまして、経費の3分の1、上限10万円までお支払いできるような制度で、全くな個人のナラ枯れに対しても対応できるように準備をしております。

以上です。

議 長
2 番 池 谷

池谷仁宏議員。

令和3年6本、令和4年に6本と、私はゼロが一つ足りないんじゃないかなと思うところがございますが、実際町道沿いのナラ枯れの木につきましては、実は今日私がこの議場に来るまでの間も2本枝をどかしてきてます。これは大分ナラ枯れが進んでおりますので、中すかすかです。雨を含むと重みで落ちてきます。

そして先週には、県道72号線ですか、八丁で1本倒木がございました。これもナラ枯れの木です。私は早朝見に行ってきました。電線も途絶えて、ガードレールも折れて曲がっているような状況です。そのときに私のできる行動というのは、東電の方に電気の供給だけしっかりしてくれ、水利の確保はできてるのか、そして奥には事業者があります。出荷は大丈夫か、キャンプで来られている方はいないか、こういう確認しかできないんですね。これはやはり未然に、今、今年度は20から30本切るとお話がございましたが、もっと多く切れないものか、いかがでしょうか。

議 長 農林課長。

農 林 課 長 先ほども申し上げましたけども、予算の関係ございますので、必要に応じて、神奈川県ガイドラインには、家屋、道路、公共施設等の通行に支障がある場合は、最優先で伐採を行うというようなガイドラインがございますので、仮に予算を使い切ったときに、その安全性に非常に影響があるようなものがあれば、それ相応の予算措置を講じて取り組みたいと考えております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 ちょうど先ほども高橋純子議員が、昨年の町長と語る会というお話がございましたが、私も昨年の10月、私の地域でございます共和地域で町長と語る会の際に、このナラ枯れの件は触れさせていただきました。自治会とともに協議をして、ナラ枯れの伐倒する木をトリアージのような形で決めて、地域と相談をして伐倒していくべきだ。これを実際町はやっていただきましたが、2本実績として切っていただいたという形です。

ただ、このナラ枯れ、放っておけば放っておくほど本当に枯れて、災害の危険になりかねないものです。実際のところ、山間地域においてはナラ枯れが災害によって倒れて、インフラすらままならないような状況に陥ると思います。そうした点を踏まえても、早急に伐倒を進めていくべきだと考えますが、これは危険な木に関しまして地域としっかり協議をして進める、それも速やかにというような解釈でよろしいのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるとおり、当初は道路とか公共施設に被害が及ぶというようなところで考えておりましたけど、今現在、やはり電線を切ってしまう、停電が起こる、それも当然考えなければいけないだろう。私のところにもナラ枯れではないんですけど、電線にかかってしまった木があつて、切ろうと思ったんですけど、これがなかなか厄介で下に電線があるものですから、高所作業車とか様々な工夫が必要で、そうでなければ単純にぼんと切って、安全確保だけすればいいんですけど、そういったようなことがありますので、私としては当然停電、電線にかかるような木も緊急に切らなければいけない木だというふうに認識してますので、それらは地域と話し合っただけで進めてまいりたいというふうに思ってます。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 やはり地域の住民と、特に山間地域においては、ナラ枯れの問題は放っておけない問題です。ここはしっかりと取り組んでいただくとともに、その中にも、県のガイドラインの中に森林に有する歴史的文化的価値の損失が挙げられるというふうな一文があります。森林の価値、歴史的という部分でいきますと、共和地区には高杉のウラジログシという木があります。これは神奈川県天然記念物に指定されているかと思えます。こういったほかの木にも災害を通じて影響を及ぼす可能性がございますので、その点も十分踏まえて取り組んでいっていただきたいと考えております。

また、先ほど冒頭の朝の挨拶で、町長が今年が目玉としまして、山北のお峰入りのお話ございました。実はお峰入り、川村小学校で記念公演を開催されますが、そこに至る町道沿いには非常に危険なナラ枯れがございます。これは10本前後立ってます。少しの風や雨によって確実に落枝されてる、非常に危険な木である。少なからずこの木の伐倒だけは、できればお峰入りの開催前には伐倒いただきたいと考えておりますが、その点はいかがでしょう。

議 長 町長。

町 長 当然、最優先でお峰入りのときは対応したいというふうに考えております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 お峰入りは最優先ということで、非常に心強いお言葉をいただきました。

やはり私は共和地域の住民ではございますが、この問題は山間地域全てに関わってくる問題だと捉えておりますので、ぜひ今後もしっかりと進めていただきたいと思いますというふうに願っております。

では、次の質問に移らせていただきます。

事業者との災害時における連携ですが、先ほど町長のほうから、災害時における減災・再建・復興に向けての必要な手段や応援いただける企業は、団体などを検討してまいりたいと考えておりますというお話でしたが、事業者としっかり向き合って、何か事業者のほうから町に対してのアプローチというものはないのでしょうか。

議 長 町長。

町長 既に、例えば事業者の種類によりますけれども、こういうことはできますよということで、部分的なものについては協定を結んでいるものもございます。例えばコンビニなんかですと、必要なものを災害時にはやるとか、あるいは産廃業者ですと、災害の後の片づけを一緒にやるとか、そういったようなことはもう既に行っておりますけれども、それ以外にも様々な企業さんが、例えば避難所としてどうかとか、水を供給できるとか、あるいは、また一時的に水位が上がったときに避難していいよとか、自治体とは違って企業さんの場合には、ある程度許容範囲が決まっています、それに対して協定を結ぶというようなことになるというふうに思っておりますので、当然入っちゃいけないところに企業秘密があるわけですから、そこへみんなが入るとかということではできませんので、そういったような企業ごとに案件は違うと思いますけれども、ぜひともこういったような災害時の協定というのは進めてまいりたいというふうに思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 災害時の協定というものを進めていきたいというお言葉がございました。

一つある企業を例に挙げさせていただきます。山北の町の中にある企業でございます。この企業は、会社を移転する際に他町に移るという話を私のところに来まして、それは困るということで、今から4年、5年前になりますが、時のある課長にお話をしたところ、しっかり動いていただいて、この町に本社機能及び工場をそのまま確保していただく、このままこの町から出ていかないという形になりました。

その住民説明会の際に、これは役場の職員の方が司会をされたそうですが、災害時にはできれば避難する場所として確保していただきたいと周辺の住民から話が上がった。そのため、その企業がどういうものを用意したか、電気や水の確保、自主的に企業が自分の事業費で確保しているわけですね。その際に、災害の連携、約束事を結びましょうと事業者側から話があったそうなんですけれども、前例がないからと断られたというふうに私は伺っております。

ただ、これがどういうふうな形でそのような格好になってきたのか分かりませんが、その点は町長、耳には入っていたんでしょうか。

議 町 長 町長。

町 長 当然、具体的ではありませんでしたが、そういうようなお話は、場所が決まってから様々な社長とかそういった方と話をしてきましたので、最初は社員食堂に入っているようなことを言ってましたけど、だんだんそれが難しくなって、災害時のというような話になったというふうに記憶しておりますけど、若干話の食い違いがあったようでして、今現在、また一からちょっとその辺のところをすり合わせして、そしてぜひとも災害時にはそういうような方向で進めさせていただきたいというふうに思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 前向きなお話かと思いますが、実はこの事業者様とは私も何度かお話をし、住民が避難できる場所というものも見てまいりました。事業者からすると、町に一度蹴られたものをまた手を結ぶ必要はないだろうなんて話はしていたんですが、私は昔の話は昔の話、今は今、これから予想だにできない災害がいつどういうふうに起こり得るか分かりませんので、もう一度膝を突き合わせて、目を見て約束事を交わしていくべきだと思います。

この事業者さん、本当に素晴らしいです。先ほど企業秘密の部分を町長は触れましたが、実は企業秘密に入る部分の扉というのは、災害時には完全にシャットダウンするんですね。なおかつここには100人以上の方が避難できる、なおかつ避難された皆さん用のWi-Fiのセットがある、電源が確保されている、水がある、トイレがある、流しがある、素晴らしいところです。こうしたところとはやはり町として、どういうふうな過去に形があったにしても、しっかりと向き合っ手を結んでいくべきだと思います。ぜひ町長にはこれをやっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議 町 長 町長。

町 長 ぜひとも、誤解があったんでしたら誤解を解いて、町といたしましては、ぜひ一緒になって、災害時の協定を結んでいくことをしたいというふうに思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 安心しました。周辺住民の皆様もきっとこれを心待ちにしていたんだと思いますので、ぜひその際には、私も何かある際には協力をさせていただきます

すので、前進させてまいりましょう。

では、次の質問にまいります。

昨年二度、大野山で火災がございました。その際に、私も消防団員の一人でございますので、消火活動、非常に苦勞したことを覚えております。山の水利の確保でございますが、先ほど水利確保などについて検討してまいりますというお答えでしたけれども、この検討というのは、どんな形での確保を目指しての検討になるのでしょうか、お願いします。

議 長 町長。

町 長 一つには、そういったような完全に飲み水まで使えるようなというのも考えなければいけないというふうに思っております。今年度、かんぼのあたりまで、何とか水道等、町営水道のほうに引っ張りたいなというふうには思っておりますけど、あくまで相手がある話ですから、そういうようなこと。

そして、こういったような火災に関しては、やはり山北町、相当雨が降りますんで、そういったような雨水の利用はできないだろうか、ためていくような、そういったような施設は山頂付近にできないかどうかというふうに検討していきたいというふうに思ってます。

全く何も決まってないんですけど、知事との中でちょっと話したことの中に、今新東名のスマートのほうがありますので、鹿島さんが造ってるインクラインというのがあるんです。インクラインを当然外さなきゃいけないんですけど、あれのときにロープウェイみたいなものを大野山まで引っ張らないかというふうに知事には話しました。そういうようなことが可能であれば、当然山頂付近に水利の問題というのは必要不可欠になってくるのではないかなというふうに考えておりますんで、そういったことも含めて、大野山の山頂については非常に魅力的なところですので、今後ともしっかりと考えていきたいというふうに思っております。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 今の新しくわくわくするようなインクラインの後に、ロープウェイというふうなお話がございました。実現に向けて動いていただきたいなと思うんですけども、ポンプ車や町の給水車による水利の運搬、分団が所有する背負い式消化水囊、これは18リットルから20リットルの水を背負って手動で消す

ものになりますけれども、現在1機各分団に配備をされておりますが、これの拡充というのは考えているのでしょうか。

議 長 地域防災課長。

地域防災課長 背負い式水囊につきましては、令和元年、2年の2か年間の予算によりまして、全分団に装備することができました。この後の拡充についてなんですけど、大変消防団13分団ありまして、消防車、詰所、防火服、靴、いろいろなものを年々更新していかなければならないという状況が続いております。

そういった中でも、今度の補助金がちょっと割合が高いぞとかそういったときを狙って、順番を入れ替えたりとか、1個追加したりだとかして、拡充をしてみたいというふうに考えております。この年に、来年には約束はできませんが、そのときに要求をさせていただければと思います。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 非常に背負い式消化水囊というのは、林野火災に価値のあるものです。私が所属する分団でも、山に入る際に、山火が発生する際には必ずそこに水を入れて背負って出動していくんですけども、これを活用するために、実は山に水利というのはあったほうがいいんですね。18リットルの水を、例えば13分団あります。13人が行きます。20と計算すると260リットル。山頂に200リットルの水利を二つ、タンクで構いません、置いておくだけで消火活動が2回、3回できるわけです。こうした点からも簡単なもので構いませんので、山頂に大野山に二つ、三つの水利を確保、簡単なもので結構です、しようという方向はありませんか。

議 長 地域防災課長。

地域防災課長 水利水槽を設置する、しないというのは、私の口からは何ともあれなんですけど、今現状で答弁書にも書かせていただきましたとおり、大野山につきましては、12月と3月、立て続けに火が発生したことから、これはいけないということで、3月、消火が終わったら、すぐ次の週には食肉業者のほうの社長さんのところをお伺いして、今後も何かあるといけないので、今後も引き続き利用させていただきたい。そのためにはぜひとも水利として指定をさせていただけないかということでお話に行きました。

実はそれは借り受けている設備ですので、これは神奈川県持ち物なので

ということで、その後すぐにまた神奈川県畜産課のほうへお伺いしまして、協議をしましてまいりました。お互いに借り受けている業者さんと県と両方のいろいろ御意見を頂戴した中で、指定というまではちょっと至らなかったんですが、今後もいつでも利用していいよというふうなことで、大変ありがたいお話をいただきました。ですので、そのたびに入りの鎖を切って、消火活動に当たってたんですけど、今回は共通な形で、お互いに共有できるような形の鍵にいたしまして、それで各分団へも水利のマップへ1個加えて、各分団へもこの7月に周知が完了したところでございます。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 水利確保が業者さんとできたということは非常に喜ばしいことではあるんですけども、大野山も非常に広いわけです、その1か所だけで足りるのかということが私には懸念されるんですけども、その点はどうお考えでしょうか。

議 長 地域防災課長。

地 域 防 災 課 長 この御質問をいただいたときにもいろいろ考えたんですが、ちょっと山は大野山だけではございません、山北町、すごくいっぱい山がありまして、どこで何が起きるか分かりません。水利の確保ということで、ちょっと頭をぐっとひねってはいたんですが、まずは考えられることは大野山でできたかなというふうに考えております。その後水利をどのようなところにどれだけ配置をするか、またはすべきかということは、今後の課題とさせていただければというふうに思います。

議 長 池谷仁宏議員。

2 番 池 谷 今後の課題ということで。大野山だけというわけではない、まさしく高松山もございます。ただ、そこに水利がないという点でフォーカスしますと、やはり大野山が一番厳しいであろうと私はそのように考えております。かつ大野山でなければならない理由というものもあります。この町の観光協会、今ホームページの作成ですとか、交流センターの見せ方は非常に上手に、大変人気のある施設かと思えますけれども、この観光協会が昨年1年度、山北町のホームページのアクセス数、20万4,018件のアクセスがありました。その中で上位を占めるのが一番はユースン溪谷ですとか、ひだまりの里という形だ

ったんですけれども、山というところで挙げますと大野山なんです、大野山が一番に上がりまして、その後高松山という順番に行きます。大野山にやはり設置する価値はここから見てもあるかと思いますが、その点はいかがでしょうか。

議 長
地 域 防 災 課 長

地域防災課長。
知名度、アクセス数等について、私もちょっと勉強不足でした。そういう数字からすると、結構優先順位は高いかなというふうには今考えられます。私としても。

議 長
2 番 池 谷

池谷仁宏議員。
優先順位が大野山が高いということで御理解をいただければ何よりかと思えます。本当はもっとたくさん質問をしたいところだったんですが、ナラ枯れの件につきましても20から30本、昨年、おとしよりもさらに増えてきたというところで、また山間地域を中心というようなお話がございましたので、少し安心したとともに、また事業者との連携についても、町長から力強いお言葉をいただきました。

また、山間地域の水利確保についても、まずは一つ事業者と連携をして確保したという回答をいただきましたので、今回の私の質問は大変時間が余って恐縮ではございますが、以上とさせていただきたいと思えます。また次回、いくつかの質問をさせていただきますので、その際にも建設的な答弁をお願いしたいと思います。

以上です。